

遍身汗タリ、赤面シテヌケトアリ、

〔平家物語 十一〕一門大路わたされの事

大臣殿宗盛の牛かひは、木曾仲義が院參の時、車やりそんじてぎられたりし、次郎丸がおと、三

郎丸にてぞ有ける、西國にてばかりをのこに成たりけるが、鳥羽にて判官義經に申けるは、とね

り牛かひなど申者は、いやしき下らうのはてにて、心有べきでは候はねども、年比めしつかはれ

まいらせ候し、御ゆるされをかうむつて、大臣殿の御さいごの御くるまを、今一度つかまつり候

は、やと申ければ、判官情ある人にて、もつともさるべし、とうくとてゆるされけり、三郎丸な

のめならずによるこび、ぞんぞやうにまやう束きぶところより、やりなほ取出てつけかへ、涙に

くれて、行さきはみえね共、牛の行にまかせつ、なくくやりてぞまかりける。

〔徒然草 上〕今出川のおほい殿季、嵯峨へおはしけるに、有栖河のわたりに、水のながれたる所に

て、さい王丸、御牛を追たりければ、あがきの水、前板までさ、とか、りけるを、爲則、御車のまりに

候けるが、希有の童かな、かゝる所にて御牛をば追ものかといひたりければ、おほい殿、御氣色あ

しくなりて、おのれ車やらん事、さい王丸にまさりてえまらじ、希有の男なりとて、御車に頭をう

ちあてられけり、この高名のさい王丸は、太秦どの、男料の御牛飼ぞかし。

〔看聞日記〕永享六年正月六日、公方義教、御牛飼十五人、參構見參、命注交名、松童丸、孫童丸、稻童丸

彌藤丸、孫王丸、若童丸、孫有丸、童菊丸、孫鶴丸、彦松丸、彌童丸、若鶴丸、松菊丸、千壽丸、彌有丸、賜捶退出

〔永享九年十月二十一日行幸記〕御車檳榔、御車副四人辻

御牛飼如木一人、御まぢを持て、御車の後、右方に有、そへ御牛飼四人、水干、

〔後光嚴院御幸始記〕應安四年閏三月廿一日甲戌、新院御幸北山第略中

御車唐、御車副四人永干、御牛飼、三人付網、